



2019年度
常 磐 会 総 会

2019年9月8日(日)

敬創策 校訓
實造和訓



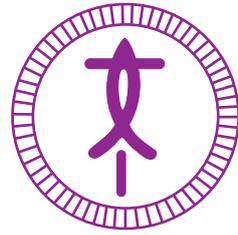
Contents

福岡県立京都高等学校常磐会総会誌
目次

| | |
|--------------------|----|
| 校歌(高女・高校) | 01 |
| 常磐会会長挨拶 | 02 |
| 京都高等学校校長挨拶 | 03 |
| 実行委員長挨拶 | 04 |
| 記念事業 | 05 |
| 常磐会総会イベント実績 | 06 |
| 常磐会会則 | 07 |
| 歴代会長・校長 | 08 |
| 常磐会本部役員名簿 | 09 |
| 職員一覧 | 10 |
| 進路概況 | 11 |
| 部活動活動状況 | 12 |
| 定時制職員一覧・近況報告 | 13 |
| 恩師からのおたより | 14 |
| 卒業生からのおたより | 20 |
| 思い出のアルバム | 26 |
| 協力回生のつどい | 34 |
| 協賛広告 | 35 |
| 索引 | 84 |
| 実行委員会組織図 | 88 |



京都高等女学校校歌



古鏡を表す銀台に七宝で隸書の「京女」を打ち出す。京女を松葉になぞらえ、「常磐」の意味を象徴している。



作詞 小川直熙
作曲 新清次郎

一、京都を名に負う 学の窓に
常磐の契りを 結べる友よ
みくにの前途の 運命を擔ふ
母こそわれらぞ 使命は重し
雅に優しく かざりをいとひ
まごころこめつ、いそしみつとめ
四年の教訓を心に秘めて
母校のほまれを伝へむ永遠に
みやこ みやこ
われらの みやこ

二、英彦の高嶺のごごしき坂を
書籍よむわれの 訓と仰ぎ
周防の大灘 たたふる水の
清きを貞操の 鏡とあがめ
からだをきたへて 皇国につくし
平和の使と 雄々しく立たむ
かくてぞひろがる 母校の誉
いざ声そろえて たたえむその名
みやこ みやこ
われらの みやこ

京都高等学校校歌



「京」の字を表す構図の中心に「高」の文字を白く浮き上がらせたもの。



福井直秋 作曲
島田芳文 作詞

一、風薫る 若き世紀の 朝ぼらけ
揺がぬ姿 英彦山
学びの窓に 仰ぎ見て
ここに誓いし 若人われら
文化の京都 その名もゆかし
ああ躍進の わが母校

二、水清き 尽きぬ流れの 今川の
たゆまず注ぐ 周防灘
真理の深さ 究めつつ
ここに競わん われらが腕
希望は芽えて 聖火は燃ゆる
ああ新興の 意気昂し

三、天地の 恵み豊かに 野に充ちて
夕陽に映ゆる 平尾台
聞け遙かなる 自治の鐘
ここに築かん 理想の庭を
友愛清く 華吹き乱る
ああ青春の この三歳

四、爽やかに 若き眸の 眉あげて
見よ美わしの 常磐木は
わが学び舎の 誇りなり
ここに創らん われらが歴史
校風永遠に 輝きわたる
ああ栄光の わが母校



ごあいさつ



常磐会会長

若山直樹
(高校22回生)

特に総会誌広告協賛のお願いは大変なご苦勞があつたことと思ひます。あらためて感謝申し上げます。

また、本年度総会にあたり快くご協賛いただいた皆様、この経済情勢下、多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。皆様のご厚意は本総会の運営、また、現役高校生への援助にと大切に使用させていただきます。

常磐会は本年末、毎年発行しております「常磐会報」の発行とともに、『令和元年度版・常磐会会員名簿』の発行を予定しております。会員名簿の完備は常磐会の大きな使命の一つです。『文化の京都』100年を超える歴史と伝統は、年々素晴らしい人材を世に出し続けています。これからも絶えることなく、「新たな時代」の新たな人材を生み出してくれることでしょう。会員の皆様とともに、新しい会員名簿の発行を喜びたいと思ひます。

最後に母校京都高校のますますの発展と、本年度常磐会総会の盛會を祈念し、ごあいさつと致します。

会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年も常磐会の季節がやってまいりました。特に本年度は新たな『令和』時代の幕開けを告げる令和元年度の常磐会総会です。多くの会員の皆様のご出席を願っています。

母校京都高校は大正6年、京都郡立京都高等女学校として開校し、爾来103年の星霜を刻みながら、大正、昭和、平成の時代を乗り越え、

ますますの発展を続けています。

母校の隆盛は常磐会会員皆の願いです。会員の皆様には、今後ともますますのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本年度総会実行委員は高校39回・定時26回・高校52回・高校64回卒業の皆様です。江本庸時実行委員長のもと、しっかりと準備を進めてこられました。実行委員の皆様のご苦勞に深い敬意を表したいと思ひます。誠にありがとうございました。





ごあいさつ



校長

土田 秀夫

あと数時間で新年号が発表されようとしている平成31年4月1日、私は京都高校に着任いたしました。まず最初の仕事として本校職員に、この歴史的な瞬間を見届けて頂くようお願いいたしました。新年号は、「令和」でした。「昭和」から「平成」に変わる瞬間も特別な想いで迎えた方も多いのではないかと思います。私もその想いを30年以上たった今でもはつきりと覚えている一人です。だからこそ「平成」から「令和」と

なる新年号発表の瞬間を先生方にはライブで見て、感じて、「新年号」への決意を決めて欲しいと強く思っていました。その瞬間には事後のニュースでは、味わうことのできない現在進行形でしか感じることでできない臨場感があるからです。多くの京都生も、ライブで見てくださいものと確信しています。もし、ライブで見られなかった生徒がいたとしても、ライブで見た先生方が必ずフォローしてくれます。

「令和を県下屈指の伝統校で迎える。」地区のトップ高としての気品に些か気後れしている自分がいたのは事実です。そんな私を助けてくださったのは、京都高校若山直樹同窓会長と京都高校で同期であり、私が勤務していた小倉高校の上司であった大下一幸校長先生でした。大下校長先生は若山同窓会長にいち早くご挨拶させていただく機会を作ってくださいました。そのおかげで、私はこれ以上ない京都高校でのスタートを切ることができました。お二人には、感謝してもしきれない気持ちで一杯です。

さて、今年度全日制の京都生には真のリーダーとなつて欲しい。「相手に対して思いやりを持って、自分の考えを伝える力」を身に付けるようお願いしています。

また、定時制の京都生には、まずは、「自分自身の健康管理をしつかりと把握する」ことを大前提とし、その上で「自分の考えをわかりやすく相手に伝える力」を身に付けるようお願いしています。全日制、定時制と、若干伝え方はちがうものの、

私が京都生に望むのは、コミュニケーション能力のスキルアップです。AI社会が目の前に迫っている今だからこそ、「人間力」、「人間らしさ」が改めて重要視される時代、それが「令和ではないか」と感じています。今年度常磐会の後輩たちは、「人間力」アップを目標に掲げ、勉強のみならず、部活動、生徒会活動、SGH等それぞれに応じた「自分らしさ」、「個性の伸張」に努めています。どうぞ相変わらぬご支援を宜しくお願いいたします。

結びにあたりまして、常磐会の益々の隆盛を心より祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



ごあいさつ



実行委員長

江本庸時

(高校39回生)

皆様こんにちは。私は2019年度常磐会総会実行委員長を務めさせていただきます。高校39回生の江本庸時と申します。

今年度実行委員である、高校39回生、高校52回生、高校64回生、定時26回生を代表してご挨拶申し上げます。常磐会は、創立以来卒業生3万人を超える、福岡県立京都高等学校及び福岡県立京都高等学校の同窓会であり、会員相互の連絡親睦、各自

の知徳の向上発展、母校の名誉の発揚に寄与することを目的に活動しています。

実行委員会の主な役割は、記念誌の作成、常磐会総会・懇親会及び記念イベントの開催で、今年度は、『感謝・友情・進化』を合言葉に活動を行っています。この合言葉には、恩師・先輩方そして地域の皆様に『感謝』し、実行委員としての再会を契機に『友情』を深め、後輩たちにバトンを繋ぎ更なる『進化』を託

すという意味を込めています。

今年度は記念イベントとして、テレビや書籍等でもお馴染みの明治大学教授の齋藤孝先生をお招きし、『人間関係をつくるコミュニケーション力』をテーマに講演会を開催いたします。これからはAI（人工知能）の時代と言われていますが、アドラー心理学では『人間の悩みはすべて対人関係の悩み』と分析されています。齋藤孝先生のご講演は必ずやより良い人間関係構築の一助になると思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今年度も記念誌の作成に際しましては、常磐会会員の皆様、地域の皆様から400件を超える協賛広告並びに寄付金をいただきました。実行委員一同大変感謝しております。誠にありがとうございました。また、この常磐会総会誌を手にした皆様におかれましては、可能な限り協賛していただいた企業様やお店をご利用していただけると幸いです。

昨年11月に実行委員会を立ち上げた時点では、新しい元号をはじめ、わからない事ばかりでしたが、若山

会長、高校38回生をはじめとする先輩方の温かいご指導・ご協力をいただきながら実行委員一同、力を合わせて頑張ってきました。仕事や家庭に忙しい中、また、遠方からも毎月1回の実行委員会に駆け付けてくれた実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。ご負担をおかけし大変なことも多かったです。ご負担をおかけが、一人一人が自分の事のように主体的に取り組んでくれた事が何よりも嬉しかったです。心より感謝申し上げます。

40回生を中心とする次年度実行委員の皆さんにおかれましては、やる以上は『大変ながらも楽しんで、損して徳を積む気持ち』で頑張ってください。出来る限りのサポートはさせていただきます。

最後に、常磐会会員の皆様、地域の皆様の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



福岡県立京都高等学校 同窓会 常磐会 2019

常磐会総会記念事業

齋藤孝氏 講演会

2019年 **9月8日**

開場/14:00 開演/14:30
講演時間/14:30~15:40 (70分)

会場 **コスメイト行橋**
行橋市中央1-9-3 TEL.0930-25-2300

同窓会協力会費 **2,000円** (コスメイト行橋で発売中)



写真提供 草思社

人間関係をつくる コミュニケーション力



全席自由

※入場は開場後、先着順でご案内します。

注 ●満席の場合は立ち見となる場合がございます。予めご了承ください。
●台風等で中止になった場合は、払い戻しは致しません。
希望者には先生の本を、入場券と交換にて1冊贈呈いたします。

チケットお問合せ先

コスメイト行橋
TEL 0930-25-2300

常磐会総会・懇親会

期日 2019年 **9月8日** 総会 17時 懇親会 18時

懇親会
会費 **4,000円**

会場 **京都ホテル** 〒824-0008 行橋市宮市町9-18
TEL 0930-23-1800

常磐会総会イベント実績



| | | | | |
|---|-----------|--------------------------|-----------|---|
| | 1988(S63) | シルエット劇「角笛劇団」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 1989(H1) | 講演「ジェームス三木」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 1990(H2) | 講演「ケント・ギルバート」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 1991(H3) | 講演「武田 イク」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 1992(H4) | 講演「橘家 園蔵」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 1993(H5) | 講演「小川 宏」 | 〈コスメイト行橋〉 | ☐ |
| | 1994(H6) | 講演「ケーシー高峰」 | 〈京都ホテル〉 | |
| ☐ | 1995(H7) | 講演「井川 良久」 | 〈京都ホテル〉 | ☐ |
| | 1996(H8) | 「GSチャリティフェスティバル」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 1997(H9) | 劇「銀河鉄道の夜」(真夏座) | 〈コスメイト行橋〉 | ☐ |
| | 1998(H10) | 講演「榊添 要一」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 1999(H11) | 講演「クロード・チアリ」 | 〈京都高校体育館〉 | ☐ |
| | 2000(H12) | 能・狂言「野村 萬斎 他」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2001(H13) | 講演「桂 文珍」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2002(H14) | 講演「宮本 隆治」元NHKアナウンサー | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2003(H15) | 講演「生島 ヒロシ」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2004(H16) | 講演「倍賞 千恵子」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2005(H17) | 講演「辻村 寿三郎」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2006(H18) | 独演会「春風亭 小朝」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2007(H19) | 「山下 洋輔ニューカルテット」JAZZコンサート | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2008(H20) | 講演「童門 冬二」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2009(H21) | 講演「松山 千春」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2010(H22) | 精華女子高等学校吹奏楽部演奏会 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2011(H23) | 講演「金 美齡」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2012(H24) | 講演「武田 邦彦」 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2013(H25) | 京都寄席 The Rakugo! 「円楽独演会」 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2014(H26) | 「桂 文枝」講演会 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2015(H27) | 「鈴木 明子」講演会 | 〈行橋市民会館〉 | ☐ |
| | 2016(H28) | 「桑田 真澄」講演会 | 〈行橋市民会館〉 | |
| ☐ | 2017(H29) | 「渡部 陽一」講演会 | 〈コスメイト行橋〉 | ☐ |
| | 2018(H30) | 「中村 文昭」講演会 | 〈コスメイト行橋〉 | |
| ☐ | 2019(R1) | 「齋藤 孝」講演会 | 〈コスメイト行橋〉 | ☐ |



常 磐 会 会 則

- 第1条 (名称) 本会は福岡県立京都高等学校常磐会と称え、本部事務局を母校内に置く。
- 第2条 (目的) 本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上発展を図り、母校の名誉の発揚に寄与することを目的とする。
- 第3条 (構成) 本会の会員は通常会員（福岡県立京都高等学校全日制、定時制、福岡県立京都高等女学校及び併置中学校・専攻科の各卒業生）及び特別会員（同校現職員及び旧職員）よりなる。
- 第4条 (事業) 本会は目的を達成するために次の事業を行なう。
 (1) 毎年本校卒業時、新入会員の歓迎をかねて入会式を行なう。
 (2) 会報、会員名簿の発行。
 (3) 母校の教育振興、会員の親睦向上のために必要と認められる行事。
 (4) その他必要と認められる行事。
- 第5条 (機関) 本会本部に次の機関を置く。
 (1) 総 会 総会は本会の最高議決機関であつて会員全体で構成し、原則として、毎年8月もしくは9月に開く。また会長が必要と認めたときは臨時にこれを開くことができる。
 (2) 役員会 役員会は総会に次ぐ議決機関であつて第7条に定める役員を以て構成する。
 (3) 幹事役員会 幹事役員会は会長の諮問に応じ、必要事項を審議する。幹事役員は会長が委嘱する。
 (4) 事務局 事務局は本会の会務運営上の事務記録を処理し、会計を掌る。
- 第6条 (支部) 都道府県市町村内または職場に本会支部を置くことができる。
- 第7条 (役員) 本会に次の本部役員を置く。
 会 長 1名 役員会が推薦し、総会の承認を得る。
 名誉会長 1名 現職校長
 副会長 2名 会長が推薦し、総会の承認を得る。
 名誉副会長 現職教頭及び現職事務長
 顧 問 会長が推薦し、役員会の承認を得る。(会長経験者)
 名誉顧問 会長が推薦し、役員会の承認を得る。
 監 査 2名 会長が推薦し、役員会の承認を得る。
 前年度総会実行委員長 1名 前年度の総会実行委員長
 当年度総会実行委員長 1名 当年度の総会実行委員長
 支部長 各支部より1名
 回生代表 各回生より1名
 前事務局長 1名 直前事務局長
 事務局長 1名 本会会員で現職員
 事務局次長 1名 同上
 学校内幹事(事務局員) 同上
- 第8条 (役員) (役員) (役員の任務)
 会 長 会長は会務を総括し、会合を主宰し、会を代表する。
 副会長 副会長は会長を補佐し、会長不在のときはこれを代行する。
 顧 問 会長の相談に応じる。
 監 査 本会の会計を監査する。
 当年度総会実行委員長 当年度当番回生を代表し、総会の企画・運営をし、総会誌を発行する。
 支部長 支部を統括し、運営する。
 回生代表 当該回生を代表し、回生内の連絡調整を図る。
 事務局長 事務局長は本部事務局を統括し、運営する。
 事務局次長 事務局次長は事務局長を補佐し、事務局長が不在のときはこれを代行する。
 学校内幹事(事務局員) 事務を掌り、処理する。
- 第9条 (任期) 役員) 役員の任期は2年とするが留任を妨げない。欠員が生じたときは役員会において選出する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。
- 第10条 (会計) 本会の経費は入会金、寄付金、その他の収入を以て充てる。会員は入会金として12,200円を納入することとする。
- 第11条 (会計報告) 本会の会計年度は4月1日より始まり翌年3月末日に終る。会費の収支決算は総会において報告し、承認を得る。
- 第12条 (会則改正) 改正は総会の出席者の過半数の議決を要する。

付 則

- ・この会則は昭和47年8月より実施する。
- ・昭和60年8月一部改正。 ・平成9年8月一部改正。
- ・平成10年8月一部改正。 ・平成13年9月改正。
- ・平成17年9月一部改正。 ・平成25年9月一部改正。

歴代会長・校長



◎歴代会長

| | |
|-----|--------------------------------|
| 初代 | 有松 藤代 会長 (昭和24年約半年間) |
| 2代 | 中尾 夕二 会長 (昭和24～27年約3年間) |
| 3代 | 白樫 陸子 会長 (昭和27年約半年間) |
| 4代 | 八田 三千代 会長 (昭和27～29年約2年間) |
| 5代 | 石田 ハル子 会長 (昭和29年約半年間) |
| 6代 | 藤田 春子 会長 (昭和29～33年約4年間) |
| 7代 | 柳田 照子 会長 (昭和33～35年約2年間) |
| 8代 | 和田 秀枝 会長 (昭和35～42年約7年間) |
| 9代 | 山路 英彦 会長 (昭和42～53年約11年間) |
| 10代 | 白井 末利 会長 (昭和53～62年約9年間) |
| 11代 | 鍵山 俊輔 会長 (昭和62年～平成10年約11年間) |
| 12代 | 尾形 知文 会長 (平成10年～17年約7年間) |
| 13代 | 若山 直樹 会長 (平成17年～) |

◎歴代校長

| 代 | 氏名 (就任年月日) |
|-----|--------------------|
| 初代 | 中川 直亮 (大正6年3月28日) |
| 2代 | 大森 実 (大正9年3月23日) |
| 3代 | 合屋 武城 (大正10年8月25日) |
| 4代 | 小川 直熙 (大正15年9月27日) |
| 5代 | 松本 寛吉 (昭和5年5月22日) |
| 6代 | 浜上 宝作 (昭和11年3月31日) |
| 7代 | 和田 熊彦 (昭和15年4月30日) |
| 8代 | 荻原 豊 (昭和22年5月20日) |
| 9代 | 八田 静夫 (昭和25年4月1日) |
| 10代 | 木村 利雄 (昭和27年5月19日) |
| 11代 | 古谷 弘 (昭和30年5月8日) |
| 12代 | 大堀 孝生 (昭和34年4月6日) |
| 13代 | 富本 市平 (昭和38年4月17日) |
| 14代 | 田頭 喬 (昭和44年4月1日) |
| 15代 | 米田 栄一 (昭和47年4月1日) |
| 16代 | 林 真澄 (昭和51年4月1日) |
| 17代 | 小袋 是郎 (昭和56年4月1日) |
| 18代 | 香月 晴美 (昭和59年4月1日) |
| 19代 | 鳥尾 恒美 (昭和62年4月1日) |
| 20代 | 吉國 岩一 (平成元年4月1日) |
| 21代 | 岡 泰司 (平成4年4月1日) |
| 22代 | 梶原 辯二 (平成6年4月1日) |
| 23代 | 山本 隆生 (平成9年4月1日) |
| 24代 | 山中 英彦 (平成11年4月1日) |
| 25代 | 金光 克彦 (平成13年4月1日) |
| 26代 | 大下 一幸 (平成14年11月1日) |
| 27代 | 大垣 洋之 (平成17年4月1日) |
| 28代 | 亀田 陽一 (平成19年4月1日) |
| 29代 | 武吉 恆 (平成21年4月1日) |
| 30代 | 中村 潤 (平成24年4月1日) |
| 31代 | 高須 雅光 (平成26年4月1日) |
| 32代 | 丸内 毅 (平成27年4月1日) |
| 33代 | 田中 浩子 (平成28年4月1日) |
| 34代 | 木部 勝志 (平成30年4月1日) |
| 35代 | 土田 秀夫 (平成31年4月1日) |



常 磐 会 本 部 役 員 名 簿

| 役 職 | 備考 | 氏 名 | 高校 | 回生 | 昭 | 大 | 村 | 重 | 彦 |
|-----------------|-------|-----------|------------|-------|-----|---|---|---|-----|
| 会 長 | 高22 | 若 山 直 樹 | 高校 | 37回生 | 昭60 | 大 | 村 | 重 | 彦 |
| 名 譽 会 長 | 校長 | 土 田 秀 夫 | 高校 | 38回生 | 昭61 | 磯 | 田 | 卓 | 也 |
| 副 会 長 | 女30 | 品 川 洋 子 | 高校 | 39回生 | 昭62 | 江 | 本 | 庸 | 時 |
| ” | 高31 | 和 田 雄 二 | 高校 | 40回生 | 昭63 | 村 | 上 | 智 | 信 |
| 名 譽 副 会 長 | 教頭(全) | 長 野 満 晴 | 高校 | 41回生 | 平成元 | 大 | 村 | 安 | 則 |
| ” | 教頭(定) | 野 田 賀 宣 | 高校 | 42回生 | 平 2 | 原 | 田 | 幸 | 一 |
| ” | 事務長 | 高 田 衣 津 子 | 高校 | 43回生 | 平 3 | 森 | 上 | 誠 | |
| 顧 問 | 高 4 | 古 谷 信 一 | 高校 | 44回生 | 平 4 | 豊 | 瀬 | 敦 | |
| ” | 高 4 | 白 井 末 利 | 高校 | 45回生 | 平 5 | 山 | 田 | 卓 | |
| ” | 高 5 | 山 路 英 彦 | 高校 | 46回生 | 平 6 | 土 | 肥 | 正 | 典 |
| ” | 高 8 | 鍵 山 俊 輔 | 高校 | 47回生 | 平 7 | 篠 | 田 | 浩 | 平 |
| ” | 高15 | 尾 形 知 文 | 高校 | 48回生 | 平 8 | 中 | 野 | 充 | |
| 監 査 | 高21 | 大久保 正 信 | 高校 | 49回生 | 平 9 | 村 | 上 | 和 | 也 |
| ” | 高35 | 田 原 康 行 | 高校 | 50回生 | 平10 | 毛 | 利 | 敏 | 德 |
| 前年度総会実行委員長 | 高38 | 磯 田 卓 也 | 高校 | 51回生 | 平11 | 村 | 上 | 剛 | 史 |
| 当年度総会実行委員長 | 高39 | 江 本 庸 時 | 高校 | 52回生 | 平12 | 藤 | 井 | 樹 | |
| 勝 山 支 部 長 | 高21 | 大久保 正 信 | 高校 | 53回生 | 平13 | 右 | 田 | 篤 | 志 |
| 北 九 州 支 部 長 | 高13 | 陣 山 建 夫 | 高校 | 54回生 | 平14 | 宮 | 下 | 壽 | 文 |
| 東 京 支 部 長 | | | 高校 | 55回生 | 平15 | 吉 | 留 | 雄 | 介 |
| 福 岡 支 部 長 | 高 8 | 仲 村 晴 子 | 高校 | 56回生 | 平16 | 友 | 清 | 貴 | 文 |
| 行 橋 市 役 所 支 部 長 | 高31 | 和 田 雄 二 | 高校 | 57回生 | 平17 | 二 | 見 | 真 | 紀 |
| 回 生 代 表 | 卒業年度 | 氏 名 | 高校 | 58回生 | 平18 | 細 | 川 | 早 | 斗 |
| 高女25回生代表 | 昭18年卒 | 友 田 房 子 | 高校 | 59回生 | 平19 | 照 | 本 | 旭 | 生 |
| 高女30回生 | 昭23 | 品 川 洋 子 | 高校 | 60回生 | 平20 | 馬 | 場 | 亮 | 介 |
| 高校 3 回生 | 昭26 | 廣 松 順 子 | 高校 | 61回生 | 平21 | 有 | 久 | 将 | 司 |
| 高校 4 回生 | 昭27 | 小 野 秀 明 | 高校 | 62回生 | 平22 | 日 | 隈 | 優 | 介 |
| 高校 5 回生 | 昭28 | 浜 田 哲 朗 | 高校 | 63回生 | 平23 | 前 | 田 | 恵 | 佑 |
| 高校 6 回生 | 昭29 | 大 江 国 友 | 高校 | 64回生 | 平24 | 鱒 | 田 | 聡 | 志 |
| 高校 7 回生 | 昭30 | 小 松 止 男 | 高校 | 65回生 | 平25 | 隅 | 田 | 拓 | 磨 |
| 高校 8 回生 | 昭31 | 伊 藤 繁 隆 | 高校 | 66回生 | 平26 | 定 | 野 | 弘 | 希 |
| 高校 9 回生 | 昭32 | 佐 藤 護 彦 | 高校 | 67回生 | 平27 | 浜 | 里 | 俊 | 吾 |
| 高校10回生 | 昭33 | 塩 塚 誠 | 高校 | 68回生 | 平28 | 白 | 川 | 魁 | 星 |
| 高校11回生 | 昭34 | 山 内 公 二 | 高校 | 69回生 | 平29 | 久 | 保 | 奨 | 己 |
| 高校12回生 | 昭35 | 角 谷 健 一 | 高校 | 70回生 | 平30 | 浅 | 富 | 義 | 德 |
| 高校13回生 | 昭36 | 向 井 啓 司 | 高校 | 71回生 | 平31 | 末 | 松 | 憲 | 児 |
| 高校14回生 | 昭37 | 松 下 清 | 定時制高校2回生代表 | 昭38年卒 | | 中 | 山 | 克 | 己 |
| 高校15回生 | 昭38 | 豊 守 齊 | 定時制高校6回生 | 昭42 | | 大 | 平 | 英 | 明 |
| 高校16回生 | 昭39 | 白 井 啓 吉 | 定時制高校19回生 | 昭55 | | 石 | 川 | 國 | 孝 |
| 高校17回生 | 昭40 | 佐 藤 政 治 | 定時制高校20回生 | 昭56 | | 坪 | 根 | 能 | 度 |
| 高校18回生 | 昭41 | 藤 木 巧 一 | 校 内 役 職 | 卒業年度 | | 玉 | 江 | 俊 | 樹 |
| 高校19回生 | 昭42 | 野 本 俊 一 | 事 務 局 長 | 高37 | | 北 | 川 | 敏 | 行 |
| 高校20回生 | 昭43 | 豊 瀬 尉 芳 | 事 務 局 次 長 | 高31 | | 田 | 中 | 節 | 子 |
| 高校21回生 | 昭44 | 有 門 信 三 | 学 校 内 幹 事 | 高26 | | 松 | 川 | 幸 | 憲 |
| 高校22回生 | 昭45 | 石 田 慶 三 郎 | ” | 高28 | | 古 | 島 | 敦 | 子 |
| 高校23回生 | 昭46 | 松 本 高 彦 | ” | 高29 | | 渡 | 邊 | 泰 | 敏 |
| 高校24回生 | 昭47 | 古 谷 芳 樹 | ” | 高29 | | 森 | 林 | 雅 | 浩 |
| 高校25回生 | 昭48 | 池 田 孝 博 | ” | 高31 | | 厩 | 谷 | み | ゆき |
| 高校26回生 | 昭49 | 大 下 敏 雄 | ” | 高34 | | 長 | 野 | 満 | 晴 |
| 高校27回生 | 昭50 | 内 田 克 彦 | ” | 高35 | | 青 | 木 | 直 | 剛 |
| 高校28回生 | 昭51 | 浦 杉 幸 雄 | ” | 高44 | | 田 | 中 | 久 | 美子 |
| 高校29回生 | 昭52 | 小 野 誠 子 | ” | 高47 | | 石 | 松 | 久 | 美 |
| 高校30回生 | 昭53 | 森 辰 彦 | ” | 高49 | | 中 | 島 | 幸 | 宏 |
| 高校31回生 | 昭54 | 和 田 雄 二 | ” | 高55 | | 上 | 森 | 史 | |
| 高校32回生 | 昭55 | 中 村 浩 行 | ” | 高56 | | 細 | 川 | 早 | 斗 |
| 高校33回生 | 昭56 | 宗 裕 | ” | 高58 | | 山 | 野 | 彰 | 子 |
| 高校34回生 | 昭57 | 執 行 和 彦 | ” | 高58 | | 甲 | 木 | 佑 | 佳 |
| 高校35回生 | 昭58 | 田 原 康 行 | ” | 高61 | | 石 | 橋 | 優 | 奈 |
| 高校36回生 | 昭59 | 高 城 喜 典 | ” | 高65 | | 高 | 木 | 健 | 太 郎 |

職 員 一 覧



| 職 名 | 氏 名 | 担当教科 | 職 名 | 氏 名 | 担当教科 |
|-------|-----------|----------|----------------|-----------|----------|
| 校 長 | 土 田 秀 夫 | | 期限付実習助手 | 上 森 史 | 理 科 |
| 事 務 長 | 高 田 衣 津 子 | | 教 諭 | 松 川 幸 憲 | 保健体育 |
| 教 頭 | 長 野 満 晴 | | 教 諭 | 玉 江 俊 樹 | 保健体育 |
| 教 諭 | 森 林 雅 浩 | 国 語 | 教 諭 | 西 崎 拓 哉 | 保健体育 |
| 教 諭 | 厩 谷 みゆき | 国 語 | 教 諭 | 日 吉 晶 之 | 保健体育 |
| 教 諭 | 大 澤 洋 一 | 国 語 | 教 諭 | 岡 野 聡 未 | 保健体育 |
| 教 諭 | 増 田 友 佳 子 | 国 語 | 常勤講師 | 高 木 健 太 郎 | 保健体育 |
| 教 諭 | 細 川 早 斗 | 国 語 | 非常勤講師 | 岡 田 清 隆 | 芸 術 (美術) |
| 教 諭 | 山 下 葉 子 | 国 語 | 非常勤講師 | 松 田 ひ と み | 芸 術 (音楽) |
| 教 諭 | 石 橋 優 奈 | 国 語 | 非常勤講師 | 大 森 ア ユ ミ | 芸 術 (書道) |
| 教 諭 | 田 中 節 子 | 地 歴 (世史) | 教 諭 | 進 佳 昭 | 外国語 (英語) |
| 教 諭 | 大 塚 宏 志 | 地 歴 (世史) | 教 諭 | 伊 藤 睦 浩 | 外国語 (英語) |
| 教 諭 | 山 野 彰 子 | 地 歴 (地理) | 教 諭 | 黄 原 三 佳 | 外国語 (英語) |
| 教 諭 | 林 義 大 | 地 歴 (日史) | 教 諭 | 青 木 直 剛 | 外国語 (英語) |
| 常勤講師 | 中 島 幸 宏 | 地 歴 (世史) | 教 諭 | 横 山 笛 美 | 外国語 (英語) |
| 教 諭 | 渡 邊 泰 敏 | 公 民 | 教 諭 | 田 中 香 織 | 外国語 (英語) |
| 教 諭 | 石 松 久 美 | 公 民 | 教 諭 | 永 山 雄 一 | 外国語 (英語) |
| 主幹教諭 | 中 山 嘉 憲 | 数 学 | 教 諭 | 北 め ぐ み | 外国語 (英語) |
| 主幹教諭 | 松 野 茂 | 数 学 | 教 諭 | 西 村 惠 | 外国語 (英語) |
| 教 諭 | 深 田 義 幸 | 数 学 | A L T | ジョセフ・カルデロ | |
| 教 諭 | 古 島 敦 子 | 数 学 | 指導教諭 | 開 田 涼 子 | 家 庭 |
| 教 諭 | 坂 井 道 孝 | 数 学 | 非常勤講師 | 山 本 智 美 | 情 報 |
| 教 諭 | 山 本 優 子 | 数 学 | 養護教諭 | 福 田 瞳 | |
| 教 諭 | 武 吉 大 輔 | 数 学 | | | |
| 教 諭 | 田 中 健 洋 | 数 学 | 事 務 職 員 | | |
| 教 諭 | 溝 口 信 也 | 数 学 | 主任主事 | 定 野 恵 美 | |
| 非常勤講師 | 金 光 正 明 | 数 学 | 主 事 | 田 中 佑 弥 | |
| 主幹教諭 | 仲 江 聖 吾 | 理 科 (物理) | 主 事 | 佐 野 由 貴 | |
| 教 諭 | 南 波 和 昭 | 理 科 (化学) | 主任技能員 | 森 美 子 | |
| 教 諭 | 北 川 敏 行 | 理 科 (化学) | 主任技能員 | 村 上 健 治 | |
| 教 諭 | 松 本 暢 隆 | 理 科 (生物) | 技 師 補 | 丹 後 孝 二 | |
| 教 諭 | 田 中 久 美 子 | 理 科 (生物) | 学校司書補 | 山 中 順 子 | |
| 教 諭 | 奥 田 真 実 | 理 科 (物理) | P T A | 浅 川 久 美 子 | |
| 教 諭 | 甲 木 佑 佳 | 理 科 (化学) | P T A | 小 山 明 菜 | |



平成30年度 進路概況

進路指導主事 仲江 聖吾

合格者数絞込みの動き

文科省による定員厳格化の施策により、合格者の絞り込みが進みました。特に定員規模の大きな大学においては、厳格化の基準が厳しくなっており、2007年では118%だった定員充足率（入学者数/入学定員）は、昨年度は101%でした。私立全体としても、昨年度は103%にまでダウンしています。

このことにより、とりあえず押さえておこうと思っていた大学に不合格になってしまふというケースも起こっているようです。したがって、出願の際には、同じ学部・学科でも日程や教科数の違い、センターがあるかどうかなど、受験方式を変えて併願回受験する生徒が増加しています。

近年のAI（人工知能）やIoT（あらゆる機器がネットにつながる）の発達、またその技術に支えられたビッグ

平成30年度 国公立大学合格者数（既卒生を含む）

| 設立 | 大学 | 学部 | 人数 | 設立 | 大学 | 学部 | 人数 |
|------------|------|---------|----------|----------|--------|---------|----|
| 国立 | 東北 | 経済学部 | 1 | 公立 | 熊本 | 理学部 | 1 |
| | 筑波 | 人文・文化学群 | 1 | | 大分 | 経済学部 | 1 |
| | | 体育専門学群 | 1 | | 理工学部 | 6 | |
| | 京都 | 法学部 | 1 | | 宮崎 | 工学部 | 1 |
| | 大阪 | 基礎工学部 | 1 | | 鹿児島 | 教育学部 | 1 |
| | 島根 | 生物資源科学部 | 1 | | | 工学部 | 1 |
| | 広島 | 教育学部 | 2 | | 法文学部 | 3 | |
| | | 医学部 | 3 | | 都留文科 | 教養学部 | 1 |
| | 山口 | 教育学部 | 2 | | 下関市立 | 経済学部 | 8 |
| | | 工学部 | 3 | | 県立広島 | 保健福祉学部 | 2 |
| | 九州 | 医学部 | 1 | | 公立鳥取環境 | 経営学部 | 1 |
| | | 共創学部 | 1 | | 山口県立 | 社会福祉学部 | 1 |
| | 九州工業 | 工学部 | 1 | | 山口東京理科 | 工学部 | 3 |
| | | 情報工学部 | 1 | | 福岡県立 | 看護学部 | 2 |
| | 福岡教育 | 教育学部 | 2 | | 人間社会学部 | 1 | |
| | 長崎 | 教育学部 | 2 | | 北九州市立 | 外国語学部 | 1 |
| | | 工学部 | 3 | | | 経済学部 | 3 |
| | 佐賀 | 経済学部 | 1 | | | 国際環境工学部 | 4 |
| 芸術地域デザイン学部 | | 1 | 地域創生学群 | 2 | | | |
| 熊本 | 理工学部 | 1 | 文学部 | 5 | | | |
| | 教育学部 | 1 | 法学部 | 4 | | | |
| 熊本 | 工学部 | 1 | 看護学部 | 1 | | | |
| | 法学部 | 1 | 大分県立看護科学 | 情報システム学部 | 1 | | |
| | | | 長崎県立 | 地域創造学部 | 1 | | |

平成30年度 私立大学合格者数

| 大学名 | 人数 | 大学名 | 人数 | 大学名 | 人数 |
|--------|----|-------------|----|-----------|----|
| 福岡 | 53 | 日本赤十字九州国際看護 | 3 | 筑紫女学園 | 1 |
| 西日本工業 | 33 | 別府 | 3 | 明治 | 1 |
| 西南学院 | 31 | 近畿 | 3 | 駒澤 | 1 |
| 福岡工業 | 24 | 大阪大谷 | 2 | 日本女子体育 | 1 |
| 九州産業 | 20 | 熊本学園 | 2 | 京都産業 | 1 |
| 九州女子 | 17 | 神奈川工科 | 2 | 日本体育 | 1 |
| 梅光学院 | 14 | 東亜 | 2 | 長崎外国語 | 1 |
| 関西学院 | 11 | 山口学芸 | 2 | 日本文理 | 1 |
| 久留米 | 10 | 崇城 | 2 | 産業医科 | 1 |
| 中村学園 | 10 | 長崎国際 | 2 | 安田女子 | 1 |
| 西南女学院 | 8 | 九州共立 | 2 | 秀明 | 1 |
| 純真学園 | 7 | 大阪体育 | 2 | 関西外国語 | 1 |
| 中央 | 6 | 神戸学院 | 1 | 東京工科 | 1 |
| 立命館 | 6 | 京都橘 | 1 | 法政 | 1 |
| 九州国際 | 6 | 広島女学院 | 1 | 東京理科 | 1 |
| 九州栄養福祉 | 6 | 甲南女子 | 1 | 立命館アジア太平洋 | 1 |
| 同志社 | 4 | 岡山理科 | 1 | 同志社女子 | 1 |
| 国際医療福祉 | 4 | 皇學館 | 1 | 青山学院 | 1 |
| 創価 | 4 | 広島国際 | 1 | 関西 | 1 |
| 日本 | 3 | 久留米工業 | 1 | | |
| 九州保健福祉 | 3 | 福岡女学院 | 1 | | |

データの活用などのICT技術革新が身の回りで起こっており、高校生にとってもそれらを身近に感じる存在になってきています。技術者も日本では不足していることから、情報に関する学部や学科の人気上昇しています。対前年比指数が、国公立大学で126、私立大学で133と大幅に受験者が増加しました。

最後の入試展望
最も心配されるのが、受験生の安否です。最後になりましたが、常磐会におかれましては、日頃より本校教育に

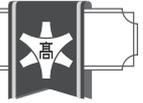
ご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。今後とも、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

上級学校合格状況・就職状況

| 平成30年度 | 現役 | 既卒 | 合計 | |
|-------------|-----|----|-----|----|
| 国立大学 | 52 | 7 | 59 | |
| 公立大学 | 41 | 0 | 41 | |
| 私立大学 | 300 | 35 | 335 | |
| 準大学(防衛大学校等) | 5 | 0 | 2 | |
| 私立短大 | 1 | 0 | 1 | |
| 各種学校 | 48 | 0 | 48 | |
| 事務 | 営業 | 技能 | 公務員 | 合計 |
| 0 | 0 | 0 | 5 | 5 |

部活動活動状況

全日制 令和元年5月1日現在



| 文化部 | | 男子 | 女子 | 計 |
|-----|----------|----|----|----|
| 1 | 演劇 | 0 | 3 | 3 |
| 2 | 華道 | 0 | 8 | 8 |
| 3 | 琴曲 | 0 | 5 | 5 |
| 4 | コーラス | 0 | 0 | 0 |
| 5 | 茶道 | 4 | 10 | 14 |
| 6 | 写真 | 5 | 10 | 15 |
| 7 | 囲碁・将棋 | 15 | 3 | 18 |
| 8 | 書道 | 0 | 8 | 8 |
| 9 | 放送 | 1 | 9 | 10 |
| 10 | 煎茶 | 1 | 0 | 1 |
| 11 | 文芸 | 5 | 2 | 7 |
| 12 | 美術 | 1 | 24 | 25 |
| 13 | 吹奏楽 | 16 | 48 | 64 |
| 14 | 料理 | 0 | 30 | 30 |
| 15 | 英語 (ESS) | 2 | 11 | 13 |
| 16 | SG | 0 | 3 | 3 |
| 17 | 科学同好会 | 0 | 3 | 3 |

| 体育部 | | 男子 | 女子 | 計 |
|-----|----------|----|----|----|
| 1 | バレーボール | 17 | 20 | 37 |
| 2 | バスケットボール | 27 | 31 | 58 |
| 3 | 野球 | 25 | 7 | 32 |
| 4 | テニス | 24 | 12 | 36 |
| 5 | 陸上 | 22 | 17 | 39 |
| 6 | 柔道 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 剣道 | 5 | 4 | 9 |
| 8 | サッカー | 30 | 4 | 34 |
| 9 | バドミントン | 23 | 25 | 48 |
| 10 | バトン | 0 | 22 | 22 |
| | ダンス | 0 | 24 | 24 |
| 11 | 水泳 | 4 | 3 | 7 |
| 12 | 卓球 | 18 | 6 | 24 |
| 13 | 空手道 | 1 | 2 | 3 |
| 14 | レスリング同好会 | 4 | 0 | 4 |

| 部活動 合計 | | 男子 | 女子 | 計 |
|--------|-------|------|------|------|
| 部 | 活動生徒数 | 250 | 354 | 604 |
| 生 | 徒数 | 366 | 424 | 790 |
| 加 | 入率 | 68.3 | 83.5 | 76.5 |

主な戦績 *平成30年4月～31年3月までの期間での県大会以上

体育部

<陸上部>

- 福岡県高等学校陸上競技対校選手権大会 県大会出場14名 男子8種競技 (1名)、男子走高跳 (1名)
男子砲丸投げ (1名)、男子400m (1名)
女子7種競技 (1名)、女子3段跳 (1名)
女子800m (1名)、女子走幅跳 (1名)
女子1600mリレー (6名)
- 福岡県陸上競技国体選考会 九州大会出場1名 女子7種競技 (1名)
県大会出場 3名 女子A400mH (1名)
男子B砲丸投げ (1名) 大会新記録
男子Bやり投げ (1名)
- 福岡県高等学校新人陸上競技対校選手権大会 県大会出場 4名 男子砲丸投げ (1名)、男子やり投げ (1名)
女子400mH (1名)、女子7種競技 (1名)

<剣道部>

- 福岡県高等学校剣道選手権大会 男子個人県大会出場 (1名)

<バドミントン部>

- 福岡県高等学校バドミントン選手権大会 男子団体県大会出場
- 福岡県高等学校バドミントン新人大会 女子団体県大会出場

<卓球部>

- 福岡県高校総体卓球選手権大会 男子個人 (1名) 県大会出場

<テニス部>

- 福岡県高等学校テニス選手権大会 男子団体県大会出場

<サッカー部>

- 福岡県高校総体サッカー競技大会 県大会出場

<空手部>

- 福岡県高等学校新人大会 女子個人形 (1名) 県大会出場

<水泳部>

- 全九州高等学校選手権新人大会 九州大会出場 (1名) 女子50mバタフライ、女子100m自由形

<レスリング同好会>

- 全九州高等学校レスリング新人大会 九州大会出場 (2名) 男子60kg級 (1名) ベスト16
男子65kg級 (1名)

文化部

<吹奏楽部>

- 第63回北九州吹奏楽コンクール 金賞 県大会出場
- 福岡県アンサンブルコンテスト (木管八重奏) 金賞 県大会出場

<写真部>

- 福岡県高等学校総合文化祭写真部門 県入選 (1名) 準特選

<囲碁・将棋部>

- 第24回福岡県高文連将棋新人大会 女子個人 (1名) 全国大会出場



定時制職員一覧・近況報告

| 職 名 | 氏 名 | 担当教科 |
|-------|---------|---------|
| 校 長 | 土 田 秀 夫 | |
| 事 務 長 | 高 田 衣津子 | |
| 教 頭 | 野 田 賀 宣 | |
| 教 諭 | 藤 田 昭 司 | 国 語 |
| 教 諭 | 渡 邊 光 治 | 地 歴 |
| 非常勤講師 | 豊 原 守 良 | 地 歴 |
| 教 諭 | 吉 浦 祐 司 | 公 民 |
| 教 諭 | 竹 下 斎 明 | 数 学 |
| 教 諭 | 藤 崎 碧 人 | 理 科 |
| 教 諭 | 坂 東 恭 平 | 保 健 体 育 |
| 非常勤講師 | 二 木 浩 子 | 芸 術 |
| 教 諭 | 峯 野 光 善 | 外国語(英語) |
| 非常勤講師 | 野 畠 洋 子 | 家 庭 |
| 非常勤講師 | 小 川 瑞 絵 | 情 報 |
| 養護助教諭 | 寶 田 早 苗 | |
| 主 事 | 徳 永 大 輝 | |

定時制近況報告

まず、平成三十年度の生徒の進路状況をご紹介します。三十年度は、四年修了生が十九名卒業しました。在学中からの仕事を継続している生徒もいますが、新規就職者が九名、進学者が六名でした。

次に、平成三十年度の特色ある行事・活動をご紹介します。

九月に行われた生活体験発表北九州地区大会に本校からは四年生一名、三年生一名が出場しました。今までの経験を発表し、努力賞を受賞しました。

文化部関係では、四月に行われた北九州芸術祭(書道部門)において、三年生四名が特選、五名が入選となりました。また、行橋市人権週間啓発作品(書道の部)では、二年生一名が入選となりました。高文連書道部門授業作品展においても三年生七名が入選しました。

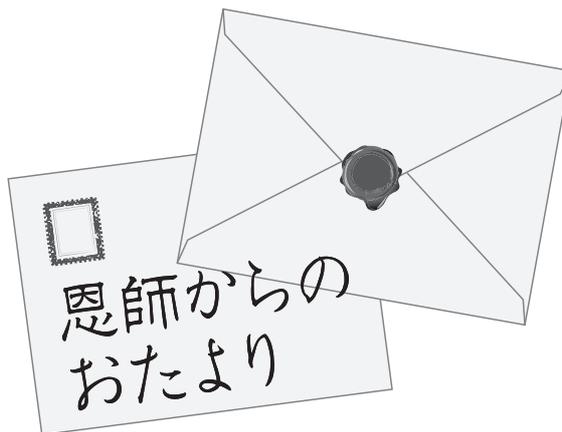
体育部関係では、高体連定通部北部ブロック卓球大会に三年生男子が出場し、県大会に出場しました。また秋季大会にも三年生一名二年生一名男子が出場しました。それぞれ優勝・準優勝し県大会に出場しました。

本年度は、新入生十四名を迎え、全校六十名の生徒数でスタートしました。

生徒たちは、仕事に勉学に全力で励んでいます。



雑感



39 回生 3 年 1 組担任
元嶋 雅彦 先生



教員になってから退職までの間に九つの学校を経験しましたが、今でも校歌を歌うことができるのが母校

を含めて三校しかありません。勤務年数が短かった、歌う機会が少なかつたなど、いろいろな理由が考えられるのですが、思い出そうとして口ずさんでみた時にそのあまりの少なさに驚いたものでした。

若い頃、某祝賀会の締めとして、校歌斉唱の指揮を執るようにと上司からの指示がありました。ずんずんと教職員の円陣の真ん中に進み出て高らかに校歌の前奏を歌い始めた時、会場が異様な雰囲気包まれていくのがわかりました。そうです。在籍していた学校の校歌にあらず、京都高校の校歌の前奏を大声で歌っていたのでした。上司の呆気にとられた顔、同僚のしらけた雰囲気の中、これはまずいとただひたすら土下座をしたことが今でも思い起こされます。そんな大好きな京都高校の思い出といえば、今は亡き金光学年での二年終了時、「おい、4月から男クラの担任ぞ」、その一言から始まった面白可笑しい一年間でした。自分自身が高校三年間のうちの二年間が男クラであったこともあり、その印象で軽く「いいですよ」と答えたのが奈

落への転落の始まりでした。

HR に行くと、教室は汚いし、整髪料とパンの臭いが入り混じった異様な臭気が漂っているし、優しい先生の授業は聞いてないし、毎日毎日誰かが悪さをするし……。おかげでまだ若かった私は、迷惑をかけた先生に頭を下げに行くは、保護者とぎすぎすした状態になるは、授業中の様子を隣の校舎から覗かざるを得なくなるは……。当時のことを思い出していると怒りがこみ上げてくるかと思いきや、豈図らんやおかしさと懐かしさでひと時幸せな気分になることができました。ただ、京都高校の男クラがこの年限りで廃止され、以後二度と編成されることがなかったことは残念に思っています。

三十数年前の話ですが、今でも付き合いのある生徒も何人かいます。他の生徒も各人がそれぞれの持ち場で頑張っている聞いています。これからも元気で、この社会を盛り上げてくれればと切に願ひながら今回の筆を置くことにします。

「私を鍛えてくれた
京都高校」

39 回生 3 年 5 組担任
今畑 博 先生



常磐会総会の開催、心よりお慶び申し上げます。特に三十九回生の皆さん、公私共々責任を持ち多忙な生活年齢の中、筆頭当番回生として尽力されていることに対し敬意を表します。

三十九回生の皆さんは、担任としては二回目の卒業生であり、次年度にはすぐに他校に転任したこともあって、私にとっては思い出深い最後の教え子となります。

京都高校は私の教諭としての初任校で、ここでの十年余りの教諭体験は常に新鮮で刺激的でもあり、且つすべてが勉強であったように思われ



ます。若さ故の未熟さや甘え、言葉足らずの不遜な思い上がりなど、今思い起こしても汗顔の至りですが、教員としても人としても「ヒヨコ」状態の私を鍛え、成長の基盤を与えてくれたのが、学校の同僚の先生方であり生徒諸君であり京都高校そのものでした。先輩教師の方々の励ましや叱責は教員としてだけでなく、仕事を持つ社会人としてのあり方を教えていただきました。生徒たちからは私に対する「先生」としての期待と、逆に「先生と生徒」ではない人間同士の関係を築きたいという想いを感じ、生徒との距離の取り方を学んでいったように思います。又、私の未熟さから来る指導への失望感や不満顔に対し、時には素直に反省し、時にはそれを生徒自身のせいにしてたりして、これはその後の教員人生の中でも後悔、反省という形で私の頭の中に刻み込まれていきました。京都高校の「進学体制」そのものも私に重い課題を突き付けました。私の大学時代はいわば「政治の時代」で、それを体感してきた私にとって、本校の体制は最初は疑問もあつたし、

生徒の将来、人生に係わる進路指導とはどうあるべきかという命題に当時大いに悩んだり逡巡したり葛藤を覚えたりもしました。しかし、卒業生と時折り会合してその成長ぶりとか遅しとかに触れるにつれ、ああいう指導法もひとつの選択肢かなと思われるし、私自身の葛藤も少しは意味があつたのかなとどこかで救われる思いがします。

何かの用件で行橋の町を通る時、よく京都高校の正門の前で車を止め、「あの頃」を思い起こします。そして自分にとっての「教育の原点」がここにあつたことを確認し、明日からの活動の糧にしていきました。現在は直方の地で、わずかながらの農業と趣味の囲碁にいそしんでいます。

最後に皆様方の今後のご活躍とご健勝を念じ、併せて京都高校、常磐会のご発展を祈念し筆を擱きたいと存じます。

退職までの二十四年間、 京都高校で

39 回生 3 年 8 組担任

倉垣 清昭先生



卒業アルバムより

常磐会総会の開催、心よりお祝い

申し上げます。三十六才で京都高校に来て、退職までの二十四年間があつという間に終った気がします。学区拡大により京都高校に集中し、八時間までの課外。今まで経験したことがない。特に英語は習熟度別に分かれる。以前からやっていたらしく、すごいやり方だと思つた。まずは、どんな学校かをじっくり見ようと思ひ、担任希望を出さなかつた。ところが、文化祭関係の文化部長に。今の文化祭の基礎になつたかな？

次は君達の四年先輩の担任に。当

時、京都には珍しく元氣の良い学年で、私は大好きでした。私自身も男女共学の時代なのに、中学高校六年間、男子クラスだったので。毎日、どの先生かが何かを言つて来ないかなと待っているのです。ある女性の先生が「先生のクラスの男の子は忍者：」帰りのホームルームで「今日はおく」と言つただけで男子生徒が六、七人出て来た。私はゲンコツを軽く…。三年生まで元氣の良い学年で私の教員生活の中で一番楽しい忘れられない学年でした。

君等の学年は昨年八月十二日に同窓会をしましたね。おぼ様の初盆で出席出来なかつたけど、当日、今畑先生から電話があり、久しぶりに山本先生も。ところが六組のN君が、多分十六才の時だと思ふのだが「習つたことを思っています。」前置詞とは読んで字の通り、前に置く言葉である。何の前に置くかと言えば、名詞、代名詞の前に置いて、その名詞、代名詞を前置詞の目的という。」電話で聞きながら驚くばかりでした。N君も先生をしているらしいが、N君ありがとう。八組のD君も、s、



s h、c h、x、o がひとつの時：
掃除の時間になるとK君のホーキ遊
び？女性はSさん、Tさんを中心に
よくまとまっていた。あるホームル
ームの時間に、私の趣味と遊びの話
で、中国の遊び？単車を古い順六台
書いたかな。今、乗っているのが一
九六五年のカワサキメグロK2 5
00。一九七七年のBMW R 60
17。今月二十五日で五十才になる
黄色いダットサンKP 510。元
気に走っている。

母と母の妹二人の卒業した京都高
等女学校。何か縁があったのでしょ
う。退職近くで三回の異動内示。母
が止めてくれたのかな？

君達の四年下の学年の時は、十一
クラス、五百十一人。学年主任で心
労が重なり大変でした。

長い京都高校での生活。多くの先
生方、事務職の方、本当にありがと
うございました。諸君達も元気で頑
張って下さい。

52回生のみなさんへ

52回生 3年4組担任

大江 史彦先生



みなさんお元気ですか？あれから
もう20年が過ぎたのですね。それぞ
れ日々さまざまなところで新しい体
験をしながら生活をしておられるこ
とと思います。たまたま久しぶりに
お会いするときは昔ばなしに花が咲
き、高校時代のみなさんと時間を共
有できたことで私の人生もどれほど
豊かになったか考えると本当に感謝
しております。

学校行事では体育大会、文化祭な
ど準備期間が短い中で工夫をして、
私を含め観ている人たちに感動を与
えてくれたことを今でも覚えていま
す。特にクラスマッチでは、私もみ
なさんが勝つても負けても最後の最
後まで一生懸命に取り組む姿に涙を
流したこともありました。クラスマ
ッチの中で私が今でも忘れられない
話があります。バスケットの試合で
自分の担当していたクラスが勝った
のですが、敗れた相手チームの生徒
が試合を観ていた私のところにきて
整列し、泣くのをこらえた顔で「あ
りがとうございました」とあいさつ
にきてくれました。勝てばうれしい、
負ければ悔しいというところではか
クラスマッチをとらえられていなか
った私は、クラスマッチを通して生
徒のみなさんは最後まであきらめず
取り組むすがすがしき、プレーする
相手を尊重する気持ち、練習や試合
の中で培う友達との関係などさまざ
まなことを学び、いろんな形で私に
伝えてくれて学ばせてくれていたこ
とにこの歳になってやっと気づきま
した。

学校というところは、教科の学習
は勿論のこと、学校に関わるすべて
の人から学び合い、「自分自身はど
う生きるべきか」考え、将来に向け
て実践していく場所であることを教
えてくれました。学びは強制される
ものでなく、自ら今の状況について
考え、周囲の人々と意見を交わした
り、様々な当事者の思いを聞いた
りして、モデルとなる人の言動から影
響を受けることで自分の生き方を転
換していくものだとみなさんに
教えていただきました。これからも
みなさんと共に学んだことや自分を
成長させてくれた学びの楽しさを今
からの生活に生かしていきたいと考
えています。

みなさんもまだまだこれからさま
ざまな体験をし、いろいろな人と出
会い、どんどん活躍されると思いま
す。私も負けないようにすべてを学
びにかえていけるように頑張ってい
きたいと思います。またお会いした
時はいっぱい語りましょう。このよ
うな機会を与えていただき、本当に
ありがとうございました。



「52回生の思い出と近況」

52回生 3年5組担任

香田 芳彦先生



平成31年度常磐会総会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。また、当番幹事として準備に携わってこられた皆様方のご苦勞に対し、敬意と謝意を表します。

「平成31年度」とはいえ、5月に改元が行われ、新しい元号である「令和」となりました。

時代が新しくなると同時に、世の中にも新しい風が吹いている、そんな気がいたします。新元号とともに京都高校も、新しい時代へと入っていくのではないかと思います。

さて、第52回生（平成12年卒業）

の皆さんとは、卒業までの3年間にわたり担任をさせていただきました。

当時私は、本校に赴任して15年目を迎えていました。本校では理系クラスへの担任をすることが多く、またクラス全員が国公立大学への進学希望者であり、重い責任を感じながら卒業式までたどりついた記憶があります。当時の校友会誌「京都」を開いてみれば、平成11年度の出来事が思い起こされます。春に歓迎遠足で、スペースワールドに行きましたが、

20年後の今、そこも閉園。12月には管理棟の大規模改造工事のため、職員室や校長室・事務室など、旧図書館へ一時移転。図書館2階へ職員室が移動し、そこで仕事をすることがとても印象深く記憶に残っています。そんな状況の中でも、進路実現を目指す生徒の姿が今も思い出されます。

皆さんが卒業した後、私は京都高校16年目を最後に、その後小倉高校へと異動いたしました。

小倉高校8年勤務した後は、小倉西高校、小倉南高校と移り、今年度4月から再び小倉高校へと戻ってき

ました。どうやらここが、教員生活最後の勤務先となりそうです。京都

高校を離れてから18年になりますが、そのときどきで本校の「便り」を風で聞き、最近ではついに100周年を迎えたと耳にしました。進路実績やSGHの取り組みなども含め、本校生徒の活躍を喜ばしく思っています。

また、皆さん個人個人が、それぞれの道でますます活躍していかれることを期待しています。

最後になりましたが、常磐会および京都高校の益々のご発展と、同窓生の皆様のご多幸とご活躍を心からお祈りしております。

「近況報告とお願い」

64回生 1年6組、2年4組、3年4組担任

山本 優子先生



令和元年度常磐会総会が盛大に行われますことに、心よりお慶び申し上げます。当番回生の六十四回生の皆さんを始め、多くの卒業生の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

一年次『数学とドラクエと変わった物体を作ることが大好きないつも笑顔の先生です。いつも笑顔なので、ときたま恐ろしいことをニコニコで話しかけてきます。』二年次『私たちは自然に任せると成長の遅い苗木ですが、常に私達の夢の実現に向けて暖かい日差しで見守り、励まし、



叡知の光で導いてくれる太陽』三年次『ゆうこりん』。これは六十四回

生が書いた担任紹介文です。京都高校での勤務も十六年目を迎えました。

その間青いサブバッグの学年団として担任を務めさせていただき、本年度より学年主任となりました。身が

引き締まる思いですが、現役生一人ひとりのために、「生徒の夢の実現

を導く光」となれるよう精一杯役目を果たしたいと思います。

担任として、強く印象に残っている行事は文化祭です。小さいいざこ

ぎを繰り返して成長し、最後はクラスが団結するので、クラス展示や合唱は欠かせないと思います。一年次

「タイムマシーン」二年次「TRICK ROCK ROAD」幻想の旅」三年

合楽曲「旅立ちの時」。二・三年次は優勝間違いなしと確信していま

したが、3年連続H先生のクラスに優勝を持って行かれましたよね。H先

生クラス以外の生徒は「打倒！〇組」と気合いを入れていたことを思い出

します。写真は「TRICK ROCK ROAD」生徒作品で、すべて違う数学

の公式で描かれた私の肖像画です。

皆さんからいただいた沢山の思い出は宝物として大切にしています。

京都高校では、進路学習の一環で卒業生の座談会があります。六十四

回生のTくんは、大学院での研究内容や周りの学生の就活の様子など、

参考になる話を沢山してくれました。「授業が眠いときはどうしていま

たか」の質問に「フリスクを食べていた」という残念な答えもありまし

たが、誠実に受け答えをしてくれて、元担任としては誇らしい気持ちでし

た。卒業生の言葉は現役生の心に強く響きます。近況を報告しに来校す

る際は終礼に招きますので、ぜひ終礼の時間帯（十五時半頃）を狙って

来てください。成長した皆さんの近況報告をお待ちしています。

京都魂

64回生 1年2組、2年7組、

3年8組担任

黄原 三佳先生

令和元年度常磐会総会の開催、誠にありがとうございます。

64回生の皆さん、お元気ですか。

皆さんが3年生の頃、私は40歳、不惑の年を迎え、信長さんにはあと

何年生きられるのか、とか、早くお婿さんを見つけないと、とか、散々

小馬鹿にされましたが、あれから早7年、相変わらず京都高校に居座り、

相変わらず花の独身生活を謳歌しています。二宮金次郎はまだ健在で、

相変わらず教室の掃除道具入れの上から、あなた達の後輩の頑張る姿を

見守ってくれています。二宮金次郎と言え、一度誰かが誤って床に落

としてしまい、壊れたこともありま

した。あの時男子がダッシュでアロ

ンアルファを買いに行き、緊急手術をしてくれたおかげで、すっかり元通りになりました。首に残る傷を見る度にあの時のことを思い出します。

私はあなた達が入学した平成21年の4月に京都高校に赴任しました。

京築地区は慣れない土地でしたので、初めは長峽中学を「ちようきようち

ゆうがく」と読んで笑われたり、仲津中学の子は大分からはるばる来て

いるのだと思ひ込んでいたり、と勘違いのオンパレードでした。でも私

にとつて救いだつたのは京都高校の生徒達がとても純朴で、賢くて、ユ

ニークな子が多かったことです。皆さんと過ごした3年間は笑いあり、

涙ありの3年間でした。1年時の文化祭。割り箸で東京タワーを作る企

画。製作途中の東京タワーを見て、ある先生が「何これ？ゴジラに倒さ

れそうな東京タワーを作っているの？」と一言。メンタルの強い我が

クラスの生徒たちはそんな言葉を物ともせず、なぜか優勝を確信してい

ました。（残念ながら優勝は逃しましたが。）3年時の合唱コンクール

リハーサルビデオ上映会では我がクラスは早送りされるという悲劇も

ありました。前評判は決して良くな

かったものの、さすが京都生。本番では立派にやり遂げるところが素晴

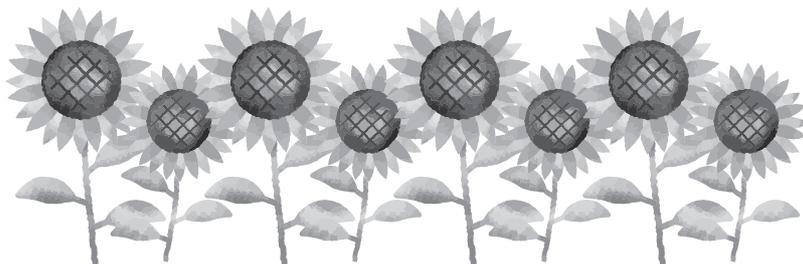


らしい。その「京都魂」に感動し、涙しました。受験の際は本当にヒヤヒヤさせられました。ある子が朝、ひよっこりやつて来て「先生、願書をまだ出してないんですけど」「締め切りはいつ?」「今日必着です」あの日貸した1万円の交通費がなければ、彼は大学に合格していなかったでしょう。(大学は山口市内。電車を間違え、5時ギリギリに着いたそうです。)その他、「滑舌が悪い」と3年間イジリ通した子、釣り好きで、釣った魚をフライにしてはタルタルソースを添えて持ってきてくれた子、卒業式で爆睡していたのに、式の後、誰よりも号泣していた子、等々・・・。挙げればキリがないほど数々のユニークな面々がいました。本当に懐かしく思います。数年前、女子のグループが卒業アルバムを手にも、遊びに来てくれました。

「黄原先生は忘れっぽいから、私たちのことを覚えていないかと思って、アルバムも持ってきました」とき。私はまだそんなにボケていませんよ!! (笑)

時折、風の便りで皆さんがそれぞれ

れの舞台で活躍されていることを耳にします。今年、令和という新しい時代が始まりました。皆さんの若いエネルギーで令和という時代を盛り上げていってください。皆さんが全国各地で、いや世界各国で「京都魂」を発揮されることを期待しています。いつまでもお元気で。

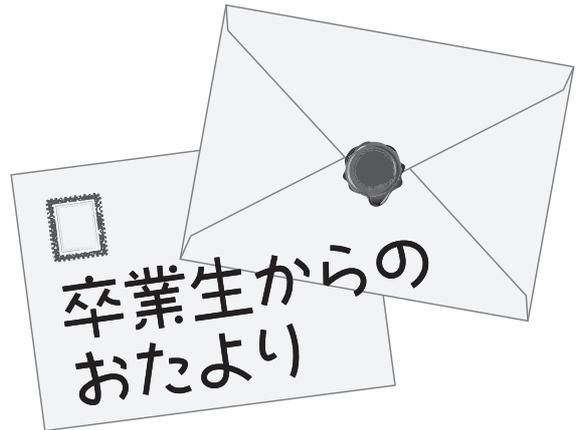




高校39回生
5組 渡邊 哲也

感謝

君を友に私と共に



高校を卒業してすぐに平成になり、今年は今和へと変わった新しい時代に39回生として寄稿させて頂くことを大変光栄に思います。

この機会に卒業してから32年間一度も見ることなかった卒業アルバムや写真の数々をみて大変懐かしく思いました。高校時代は、課外授業やテスト勉強、宿題に追われて毎日が分刻みのような生活でした。特に、自分は電車通学であったため、朝6時半に親から起こされ、辞書が詰まった重いカバンを背負い、7時過ぎの電車に乗り、行橋駅から25分歩き、やっと校舎にたどり着くという生活を3年間しました。今思えば体力、気力が鍛えられたような気がします。そんな3年間を乗り越えられたのは、そこにいつも友達がいてふざけた話をしたり、文化祭、運動会やクラスマッチで仲間と勝つために作戦を立てたりした楽しい時間があったからだだと思います。みやこ体操や緑カバンや緑ジャージもすべて懐かしく、諸先生にも大変感謝しています。

高校を卒業して福岡の大学に進学しました。今までと全く違う環境で勉強はほどほどにしてサークル活動、バイト、さまざまなスポーツに没頭する中で短期留学する機会があり英語力を試すチャンスだと思いましたが、英語が全く通じず、かなりの衝撃を受けました。これをチャンスとして前向きにとらえ、大学中に英語を猛勉強して、卒業後は国内旅行会社や留学専門の旅行会社に就職することが出来ました。旅行会社では、お客様に夢を与えるサービスであるをモットーに頑張りました。海外に行ったり来たりと苦労もありましたが非常に楽しかったです。

45歳までプロでやってこれたと言いましたが、継続にはやる気・根気・元気が必要だと思っています。自分がPTA役員やボランティア団体、地域の福祉にも継続して活躍できているのは、今考えればこれも高校時代に熱心に指導頂いた諸先生や素晴らしい仲間と京都高校で過ごせたからこそだと思います。



趣味の野球

AKB48の365日の紙飛行機の曲の歌詞に『人生は紙飛行機 距離を競うよりどう飛んだか どこを飛んだか それが一番大切なんだ』とあります。時間を大切にすることを無かった高校時代から30年余り経ち、

改めて人生について考え感銘を受けました。50歳を過ぎましたが、いくつになっても大志も持って青春は出来ると思つてこれからもいろいろなことに果敢にチャレンジしていきたいと思つています。

結びに常磐会の皆様感謝するとともに京都高校の益々のご発展と同窓生のご健勝とご多幸を祈念いたします。

「今もなお続く、 高校生活」

高校39 回生

6 組 長野 裕二



大人になり、高校時代の思い出を聞かれると、「文武両道、充実した

高校生活でした」と答える人が多い。しかし、私にとつての高校時代は、スポーツや勉強、学校行事など、どれをとつても達成感や充実感を抱くことのできない、情けない思いを抱きながら終えた時代であつた。卒業式を終え、家に帰り、学生服をタンスにしまおうとした瞬間、何とも言えない「怒り」に包まれ、学生服を畳に叩きつけたことを鮮明に覚えて

いる。その「怒り」の原因は、間違ひなく「自分自身」にある。

私は、才に恵まれてゐるわけではない。京都に合格するために人一倍懸命に勉強し、憧れの京都高校に合格することができた。しかし、いざ高校生活が始まると、課題や授業、模試など、多忙の毎日の中、好きな柔道も中途半端な形でしか行えず、学校行事においても受け身の姿勢であつた。また、自分の勉強スタイルを確立できていない者にとつて大学入試突破は高い壁であり、人生で初の挫折を味わうことになる。そのよ

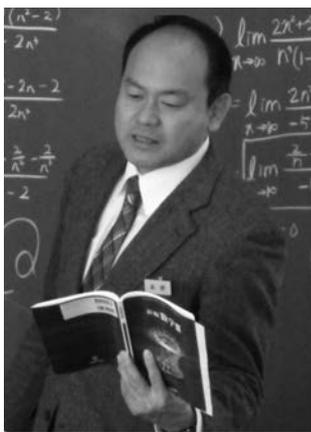
う、自分の思いを語り、背中を見せることはできると信じている。

情が混ざつての「怒り」だつたといえる。しかしそのような高校生活にあつて、まっすぐに成長できたのは恩師たちのおかげである。間違いなく緑学年の先生方は、厳しく、熱く、心優しい先生方ばかりであつた。1年次担任の金光先生、2、3年次担任の大江先生には言葉では言い尽くせないほどの恩を感じている。金光先生は、会合で会うたびに、教師なりたての私にいつも温かい言葉をかけて下さり、あるべき教師の姿を導いて下さつた。大江先生には、いつも目をかけていただき、何かあれば必ず言葉をかけていただいた。今もなお心温かく見守つていただいている。今畑先生や元嶋先生とは同じ職場で教鞭をとる好機に恵まれ、その思い出は一生忘れることができない。

今、私は、27回目の高校生活を送つてゐる。果たしえなかつた高校生活を取り戻すべく、現役の生徒以上に勉強に部活動に情熱を傾けている。学生服を脱ぎ捨てた暗い過去を消すことはできない。しかし、生徒たちが自分と同じような後悔をしないよ

う、自分の思いを語り、背中を見せることはできると信じている。

私の好きな映画の一つに「愛と青春の旅立ち」がある。リチャード・ギア演じるザックは士官学校に入学する。士官学校では教官のフーリー軍曹が士官候補生を心身両立で鍛えあげ徹底的に教育するシーンがある。ザックもその試練に耐え、なんとか卒業式を迎える。卒業式の日、ザックと軍曹が最後の言葉を交わした後、軍曹がザックに敬礼をするシーンがある。つまり卒業すれば立場が逆転するわけである。そのことはわかつていて徹底的にしごき、たくましく士官に成長させるべく愛の鞭を振つてゐる軍曹の思いに共感する。卒業していく生徒たちに敬礼ができるよう、今日も負けずに教鞭をとる。





イラストレーター という仕事。

高校39回生

3組 網中 いづる

(旧姓 豊田)



ひさしぶりに高校時代の記憶の断片をぼつぼつと拾う作業は「面倒くさいなあ」「ああ青くさくて恥ずかしいなあ」の連続であり、そこをなんとか我慢しながら眼を閉じて見えてくる光景は、教室の窓が切り取る木々や連なる部室の屋根、先生のよく通る声で読み上げる古文の一節、少し暗い廊下と昼休みの騒めく教室。なんだか眩しい。

ぎゅうぎゅうに窮屈な校則には不満だらけで早く抜け出したかったけ

れど、一瞬の貴重な青春の時間だということも十分にわかっていたから精一杯楽しんでいた。田舎の高校生にも世の中の陽気なバブル感は伝わっていて明るかったと思う。マドンナが好きだ、クイーン最高、ライプエイドだ、おニヤン子クラブだ、ユーミンだ、いやNOKKOだ、尾崎豊だ等、なんだかんだと喋りながら帰ったものだ。緑色のダサイバッグをぶら下げながら。

部活は演劇部(兼美術部)。いま思えばこちらも都内の小劇場ブームのさざ波くらいが届いていたようで、教室でのぼんやりした自分が嘘のように、授業が終わった途端に熱く稽古に打ち込んだ。

将来のことは何にも考えてなかったけど、流行の音楽を聴き、オリオンを読み、東京の大会やパリのリセエヌに憧れ、恋の話をして、キラキラしたものを探していた。そんな高校生がその後は美大に進学、裏原宿と言われた渋谷区神宮前でパレルの仕事に就いた後、フリーランスのイラストレーターに。

イラストレーターの仕事について

も様々で、わたしはエディトリアルをメインに書籍装画や挿絵、絵本、雑誌、教科書、CDジャケットのほか、企業広告、パッケージ、ポスター、百貨店のディスプレイ、グッズ、テキストなど幅広く関わり、都内が主だが個展も定期的に行う。大学でも教えている。

会社勤めではないので所属する苦労はないが、描き続けていくのはラクではなく、伸びやかなタッチと評されるわりにシリアスな働きっぷり。意外に思われるのは、絵が上手いこと以上にコミュニケーション力が重要ということ。そして常に進化したいという気持ちと努力が大切。これいいやと満足することなく貪欲でありたい。

いま演出家の串田和美さんとポスター仕事のやり取りが続いているが、演劇少女時代の自分に教えてあげたいなと思った。

網中いづるプロフィール

2002年にイラストレーターとして独立。

2003年TIS公募大賞、

2007年講談社出版文化賞。
2019年ワコール70周年記念カレンダーを手がける。

「もうおなかいっぱい」

高校52回生

3組 藤井 樹



「タイムマシンに乗って人生をやり直せるとしたらいつ頃からやり直したい？」そんな他愛もない、それでいてすごく奥の深い質問を受けることがある。

まずはやはり大学時代かなあと考える。特に何をするわけでもないのに昼夜が逆転していたあの何とも言えないモラトリアム期間に、もつと色々なことに貪欲に取り組んでいれ

ば人生は変わっただろうなと思う。しかし、可能性を広げるとい意味ではそもそも地方大学に進学するべきではなかったと考えるとやはり高校時代、そう、京都生に戻ってもつと受験勉強に励みたいかなとも思う。いやいや待てよ。毎朝の「朝テスト」に加えてほぼ毎週土曜日に「定例テスト」。それ以外にも実力テストや中間、期末テスト。さらに、京都生に向けられる世間の厳しい目や「お利口さん」のイメージに日々抗って生きていたあの毎日に、社会に出て様々な進学校の特色を知った今から戻るのにはきついだらうなと感じる。

そうであれば中学生にまで戻るか。確かにあの何でもやりたい放題の中学時代は本当に楽しかったし、とにかく自由な毎日だった。そんな中で京都高校に進学する以外の選択肢があるのならそれを模索するかもしれない。ただでも、中1や中2の頃は先輩にいつ「くらされる」かわからない恐怖に日々怯えながら生活していた。そうなるかといつそ小学生か。いやいや、あの頃は給食でミニトマトやコーンが出るたびに早く大人に

なりたいたいと思っていたし、今更小学生に戻っても当時のように純粋に鬼ごっこを楽しめない。

そんなことを考えていると、そもそも過去に戻りたいかという疑問に立ち返る。そういえば、別に戻りたいとは思わない自分がある。その時どきが嫌だったわけではない。嫌なことでも確かにあったが、楽しいことでもたくさんあった。それらを全て含めて、要はもうおなかいっぱいと思えるほどそれぞれの時代を満喫したのである。なかなか前に進まなかったり時間が全然経たなかったりした。特に高校時代は「まだ2時間目か。」

「まだ火曜日か。」なんてことは日常茶飯事であった。ただそうして懸命に走っていた分、日々感じる達成感や開放感とはとても大きくないのであったと今さらながら思う。

翻って今はどうか。1日はあつと言う間に過ぎ、盆が過ぎたらもう翌日には正月がくるような日々。そんな中でも毎日おなかいっぱいまでベッドに入ることを目標にし、昨日に戻ることすら「もう勘弁してくれ」と思うくらい全力で走っていたと思

っている。もちろんそうならない日もあるが、自然と走らなければならなかった高校時代とは違い、今は自ら走らなければおなかいっぱいにはならないことを自覚している。日本全国、世界各地にいる52回生の同級生の仲間たちもまた、見るからに結構毎日おなかいっぱいだろうなという生活を送っているようである。

そんな仲間たちにも「タイムマシンに乗ってさあ・・・」と聞いてみたい。でもしたらきつとそもそも「タイムマシンつち何なん」と馬鹿にされるだろうな。どこか冷めてるヤツが多いもんね。もちろんいい意味で。



「北の地から」

高校52回生

4組 山崎 優子

(旧姓 藤田)



イナス30℃を記録することも稀ではありません。

このサハリンには現在も日本統治時代の遺構があちこちにあり、その歩んできた歴史は複雑で地理上北方領土も近い。またロシア人だけでなく韓国・朝鮮系の人も多く、日本に対して良い感情を持った人ばかりではありません。デモや集会に巻き込まれないよう領事館から注意喚起があるのも日常茶飯事です。高校時代、世界史の時間に教科書の中の過去の出来事だと思っていた事柄と、日常生活が隣り合わせと言うのも中々面白いものです。

京都高校を卒業してもうすぐ20年が経つ、という事実には驚きつつ、定番回生として直接現地を手伝うことが叶わぬ為、こちらに寄稿させていただきます。私は今、ロシア連邦サハリン州の州都ユジノサハリンスクという場所に主人の駐在の為、2人の子供と共に居住しております。日本では「樺太」と呼んだほうが通りはいいかもしれませんが、北海道の真上にあるあの細長い島です。1年のうち半分は雪が降っており、真冬にはマ

この地の特徴でしょうか。See you somewhere in the world! という言葉が子供達を使うのも素敵だな、といつも思います。

国外に出ると、今まで自分のいた世界がいかに狭かったか、と言う事をいつも思い知らされます。ただ、その狭い世界はいつ戻っても温かく自分を受け入れてくれるという安心感と郷愁を与えてくれます。私にとっては京都高校生時代がまさにそれに当たり、卒業から何十年経とうと、ひとたび再会すればいつも昔の気持ちに戻れる友人も、恩師も、3年間の思い出も宝物です。

現役京都生の皆さん、今は必要なのか?と思っている勉強も、無駄に過ごしたと思っている時間ですら全て未来に繋がります。とにかくすべての時間を楽しんで! (英語だけはある日急に必要になるかもしれないのでちょっと張り切って下さい。)

最後になりましたが、常磐会の成功と、京都高校の益々の発展を北の地からお祈り申し上げます。





「平成から令和へ」

高校64回生

6組 鱒淵 聡志



京都高校を卒業して、早いもので七年が過ぎました。寄稿文を書くにあたり、卒業アルバムを眺めていると数々の思い出が蘇ってきました。

高校一年次の「規律と友情の体験合宿」。集団行動では、指揮者を務め、声をからして号令をかけ、朝も夜も練習に励みました。最終日の発表会では入賞できなかったものの、あの時クラス一丸となって練習したこと、絆が深められたのではないかと思います。

高校二年次の「修学旅行」。新幹線からバスへと乗り継ぎ、スキー場までの道のりは長かったです。スキー場に着くと一面に広がる白銀の

世界に感動しました。初めてのスキーで最初はこけてばかりでしたが、インストラクターさんのおかげで段々上達していき、思うように動けるようになっていくと楽しくなりました。また、修学旅行実行委員長として企画をし、AKB48の『会いたかった』を踊ったり、ハンドベルでの演奏をしたりしたのも当時のDVDを見て懐かしく思いました。

仲間と共に汗水流した「体育大会」。高校二年次までとは違い、三年次には生徒会長として企画・運営に携わりました。その中で、クラス数が減少したことによるチーム編成の見直しや危険防止の観点からの騎馬戦廃止などを通して、行事を創り上げる難しさを学びました。

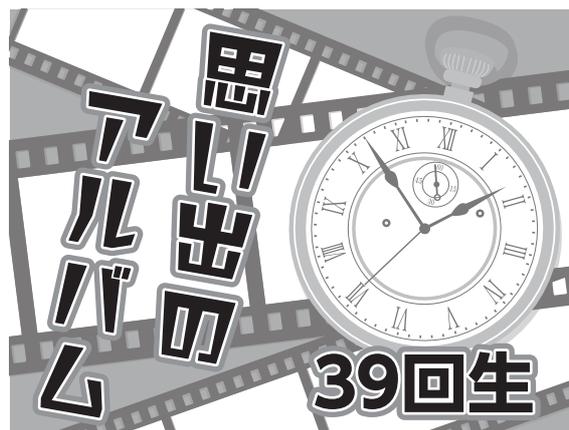
心を一つにして歌った「文化祭」。受験勉強に追われる中、限られた時間での練習を余儀なくされました。最後の合唱では、みんなで一つのことをやり遂げるといふ喜びを味わうことができました。

京都高校で過ごした三年間は、勉強に部活動、生徒会活動ととても濃い時間で、どれもが良い思い出です。

現在私は、地元の役場で社会福祉に関する仕事に携わっております。今後も人とのつながりを大切にして地域貢献に努めてまいりたいと思いません。

私が生まれ育った「平成」の時代も終わり、新元号「令和」がスタートしました。記念すべき令和元年に常磐会の当番を務めることができ嬉しく思います。十二年後、二十五年後にも当番回生となりますので、今以上に横のつながりを強くして、先輩方が築いてくださった伝統を引き継ぎ、常磐会の発展に貢献していきたいと思えます。

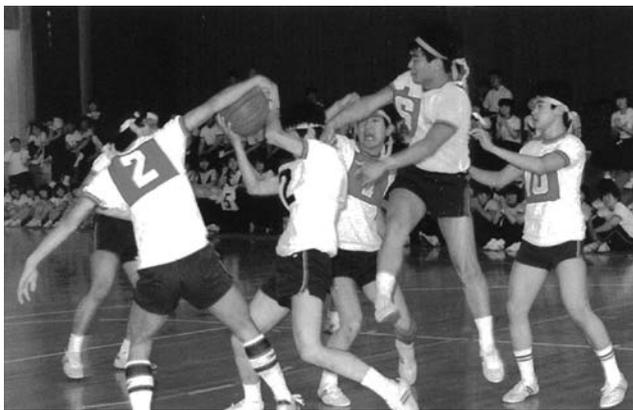






福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2019







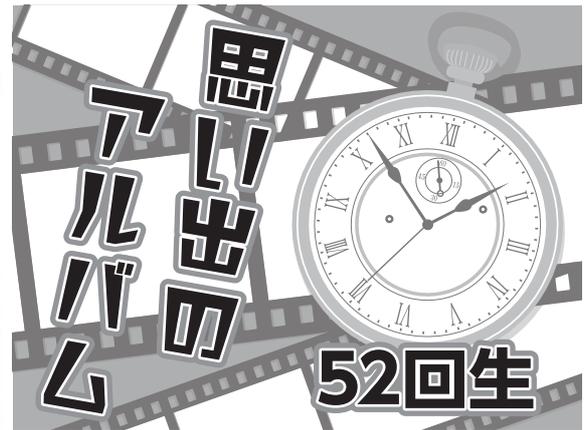
福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2019



旅行日程表

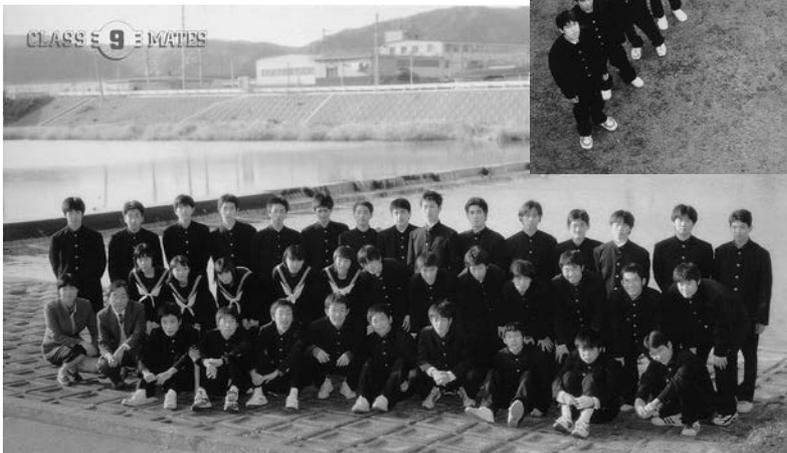
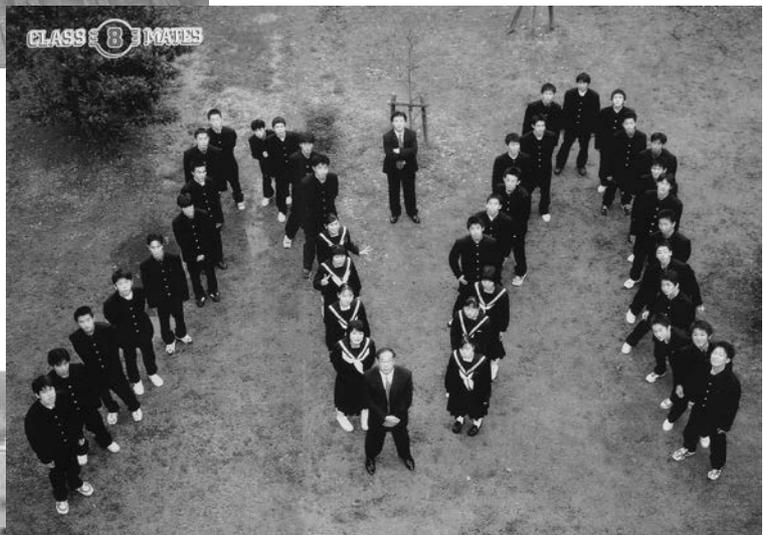
| 月日(曜) | 日 | 程 | 宿泊 |
|-------------|---|---|------------------|
| 1/28 (火) | | 14:50 17:50 (臨時急行列車) 学校集合………行機 | 車中泊 |
| 1/29 (水) | | 10:50 11:30 長野 バス 11:30 13:00 善光寺 バス 14:30 妙高高原 | 五輪ランド パノラマホテル |
| 1/30 (木) | | 7:00 7:30~9:30 9:30~11:30 11:30~13:30 13:30~15:30 15:30~19:00 19:00~ 22:00~ 起床 朝食・準備 スキー教室 昼食・休憩 スキー教室 入浴・夕食 映画・講話 就寝 | 同上 |
| 1/31 (金) | | 7:00 7:30~9:30 9:30~11:30 11:30~13:30 13:30~15:30 15:30~19:00 19:00~ 22:00~ 起床 朝食・準備 スキー教室 昼食・休憩 スキー教室 入浴・夕食 班別ミーティング 就寝 | 同上 |
| 2/1 (土) | | 6:30 7:00~8:20 8:30~10:30 11:00~12:00 12:00~14:00 14:00~ 起床 朝食・準備 スキー教室 昼食・休憩 スキー教室 出発準備 | 車中泊 |
| 2/2 (日) | | (臨時急行列車) 13:56 行機 解散 | |

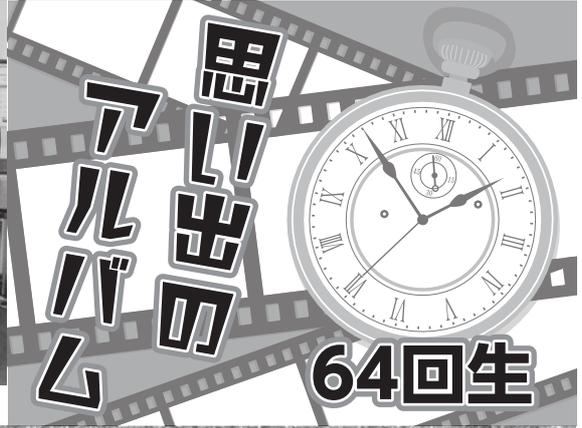






福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2019







福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2019

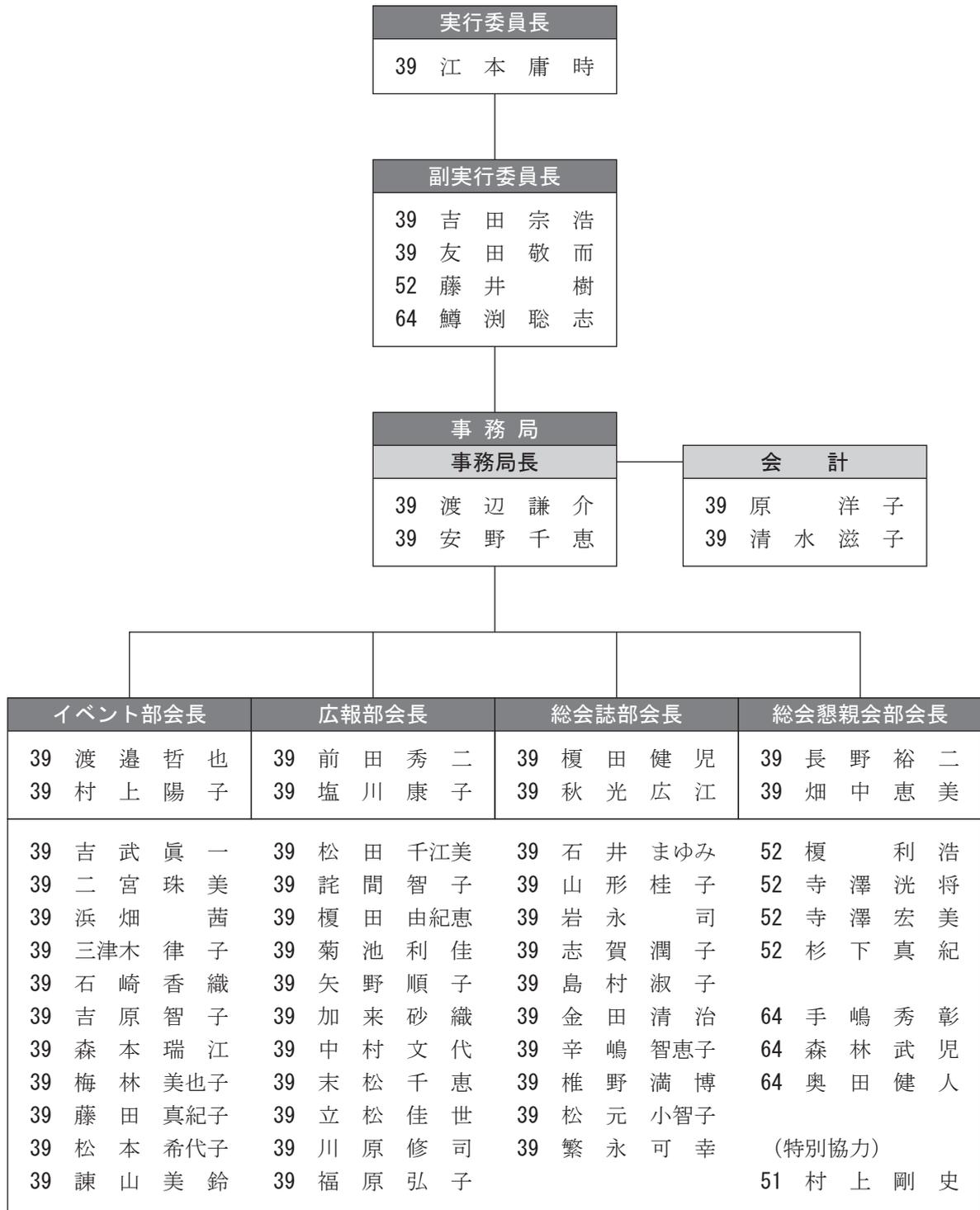




2019年6月15日(土) 京都ホテルで開催



福岡県立京都高等学校同窓会常磐会 2019



※数字は回生

2019年度 常磐会総会誌

発行日 2019年9月8日
 発行 2019年度
 常磐会総会実行委員会
 印刷 有限会社 京都印刷

大切なお祝い行事も 京都ホテルがおもてなし

ウェディング・ご宴会・ご法事・ご宿泊・レストランなど、幅広くご利用いただけます。

お気軽にお問い合わせください。

赤ちゃんのお祝い

帯祝い・出産祝い
お宮参り・初節句

お子様のお祝い

七五三・入園入学
誕生日・成人式



結婚式・披露宴

神前式・人前式
チャペル式

賀寿のお祝い

還暦・古稀・喜寿
米寿・卒寿・白寿

記念行事

創立記念・発表会
周年記念・祝賀会

栄進、栄転、受賞等

歓迎会・送別会
定年退職祝い
表彰・受賞祝い





感謝・友情・進化

Ⓜ 福岡県立京都高等女学校同窓会 ⚙ 福岡県立京都高等学校同窓会

(当番回生)

昭和62年卒業高校39回生・昭和62年卒業定時26回生
平成12年卒業高校52回生・平成24年卒業高校64回生